

# 小児科専門医研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに



このプログラムは、静岡県西部の研修病院、ならびに県内浜松医大関連病院等により小児科専門医を育成するために作成するものです。このプログラムに関心を持って頂いた皆様に心より歓迎いたします。

「すべては未来ある子どもたちのために」。小児科は未来ある子どもたちの健やかな成長・発達に深く関わってゆける大変やりがいのある分野です。私たちは小児科専門医を目指す皆様に、このプログラムを通じて全力で応援させていただきます。

小児科専門医取得には各分野の小児疾患を偏りなく合計 30 症例経験することが必要です。本プログラムではこれを無理なく実現すると共に、浜松医科大学小児科を中心とした複数の病院をローテーションすることによって、後期研修期間に重要な「小児科医としての基礎固め」を行うことが可能です。皆様の積極的な応募を期待しています。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部小児科 教授 緒方 勤

## 2 目的

日本小児科学会認定小児科専門医の取得が基本的目標となります。さらに、医療上の疑問点について研究活動を行う優れた問題解決能力を備えた独立臨床研究医の育成を目指します。同時に、広い医学知識や高度な医療技術のみならず、社会人としての常識・人間性を身につけた良識ある小児科医の育成を目指します。

## 3 目標

### 1) 日本小児科学会専門医の取得

日本小児科学会が規定する小児科専門医試験では次に示す (1) ~ (10) の各分野群で、異なる疾患で少なくとも 2 症例以上、合計 30 症例の要約が必要となります。

- (1) 遺伝疾患、染色体異常、先天奇形 (2) 栄養障害、代謝生疾患、消化器
- (3) 先天代謝異常、内分泌疾患 (4) 免疫異常、膠原病、リウマチ性疾患、感染症
- (5) 新生児疾患 (6) 呼吸器疾患、アレルギー (7) 循環器疾患
- (8) 血液疾患、腫瘍 (9) 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患
- (10) 神経・筋疾患、精神疾患 (精神・行動異常)、心身症

本プログラムではこの 30 症例を超えて、可能な限り多く、かつ、深く経験することを目標とします。

### 2) 独立臨床研究医の育成

このために、国内外の学会における発表と共に、論文発表を積極的に指導します。最終的に、

研究を自身で立案・遂行し、英文論文を発表できる独立臨床研究者の育成を目指します。この過程で、専門医取得だけでなく、学位取得を奨励します。

### 3) 良識ある小児科医の育成

日々の臨床活動に真面目に取り組むことが、社会人としての常識・人間性を身につけ、患者・家族の信頼が得られる医師に育つ道であると信じます。

## 4 特徴

県内唯一の医科大学である浜松医科大学での研修が含まれるのが大きな特徴です。大学病院以外では経験することが難しい希少疾患や重症例はもちろん、いわゆる「common disease」も豊富に経験することができます。プログラム終了時点において、日本小児科学会専門医取得が可能となるように策定されております。

また、研究活動として、小児科学会やその分科会・地方会のほかに、静岡県小児症例検討会や専門分野の病院間連携による合同カンファレンスが行われています。

## 5 研修カリキュラム

日本小児科学会「小児科専門医臨床研修手帳」に準じます。

### I 小児科専門医の全体目標

小児科専門医の全体目標

全体目標の自己評価と指導医評価

### II 総論

評価表

小児保健の個別目標

### III 経験すべき症候・疾患

1. 経験すべき症候と評価表

2. 経験すべき疾患と評価表

3. 経験すべき技能と評価表

### IV 各分野の目標

成長・発達／栄養・栄養障害／水・電解質／新生児／先天異常(遺伝、染色体異常、奇形症候群)／先天代謝異常、代謝生疾患／内分泌／生体防御・免疫／膠原病・リウマチ性疾患／アレルギー／感染症／呼吸器／消化器／循環器／血液／腫瘍／腎・泌尿器／生殖器／神経疾患、筋疾患／精神疾患(精神・行動異常)、心身医学／救急／関連領域

「小児科専門医臨床研修手帳」には上記の内容が含まれ、全 72 ページで構成されております。希望者には PDF をメールでお送りさせて頂くことも可能です。

## 6 研修例

- 1) 各病院での研修期間は基本的に1年間と致しますが、短縮(最低6か月間)も可能です。
- 2) 小児科専門医研修支援施設である浜松医科大学小児科での6か月間以上の研修が必修です。

【卒後3年目医師の研修計画(例)】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	関連病院群の中の1つの病院											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	関連病院群の中の1つの病院											

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	浜松医科大学											

※日本小児科学会に入会し、3年間指定施設で研修を行うと日本小児科学会専門医の取得条件を満たします。

## 7 研修病院群(症例実績を含む)

- (1) 浜松医科大学医学部附属病院小児科(2015年1月現在)

### 教授 緒方 勤

所属学会：日本小児科学会代議員、日本小児内分泌学会理事長、

日本小児遺伝学会理事、日本人類遺伝学会評議員、日本内分泌学会評議員代議員、日本生殖内分泌学会理事、日本ステロイド学会理事、日本アンドロロジー学会評議員、米国内分泌学会、米国人類遺伝学会、小児インスリン治療研究会、日本エピジェネティクス研究会監事、日本小児代謝性骨疾患研究会監事など

資格：日本小児科学会専門医、内分泌・代謝専門医(小児科)・指導医、臨床遺伝専門医制度専門医・指導医



### 准教授 福田冬季子

所属学会：日本小児科学会、日本小児神経学会評議員、日本先天代謝異常学会、日本神経学会、日本遺伝カウンセリング学会、日本てんかん学会、日本ポンペ病研究会幹事

資格：日本小児科学会専門医、日本小児神経専門医、臨床遺伝専門医

### 講師 中西俊樹

所属学会：日本小児科学会、日本小児内分泌学会、日本肥満学会

資格：日本小児科学会専門医

**講師 福家辰樹**

所属学会：日本小児科学会、日本小児アレルギー学会、日本アレルギー学会、  
日本小児皮膚科学会、欧州アレルギー臨床免疫学会

資格：日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本アレルギー学会指導医

**助教 松林朋子**

所属学会：日本小児科学会、日本小児神経学会

資格：日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医

**助教 田口智英**

所属学会：日本小児科学会、日本小児アレルギー学会、日本アレルギー学会、  
日本小児リウマチ学会、日本臨床免疫学会、日本小児感染症学会、  
日本川崎病学会、日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会

資格：日本小児科学会専門医

**助教 坂口公祥**

所属学会：日本小児科学会、日本小児血液学会、日本小児がん学会  
日本血液学会、日本造血細胞移植学会

資格：日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医、  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

**助教 藤澤泰子**

所属学会：日本小児科学会、日本内分泌学会、日本小児内分泌学会、肥満学会、日本ラクテ  
ーション・コンサルタント協会

資格：日本小児科学会専門医、日本内分泌学会専門医、日本内分泌学会指導医

**診療助教 宮城佳史**

所属学会：日本小児科学会、日本小児神経学会

資格：日本小児科学会専門医

**診療助教 石垣 英俊**

所属学会：日本小児科学会、日本小児神経学会

資格：小児科専門医

**医員 安岡竜平**

所属学会：日本小児科学会、日本アレルギー学会、小児リウマチ学会

資格：小児科専門医

**医員 小野裕之**

所属学会：日本小児科学会、日本アレルギー学会、小児リウマチ学会

資格：小児科専門医

**医員 川上領太**

所属学会：日本小児科学会、小血液がん学会、日本血液学会、造血細胞移植学会

資格：小児科専門医

**医員 犬塚祐介**

所属学会：小児科学会

資格：未取得

**医員 内田博之**

所属学会：小児科学会

資格：未取得

**医員 松永真由美**

所属学会：小児科学会

資格：未取得

**医員 成瀬嘉彦**

所属学会：小児科学会

資格：未取得

**大学院生 高橋寛吉**

所属学会：日本小児科学会、日本小児血液・がん学会、日本血液学会、日本造血細胞移植学会

資格：日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医、

日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本血液学会血液指導医

**大学院生 中島信一**

所属学会：日本小児科学会、日本内分泌学会、日本小児内分泌学会、日本人類遺伝学会、日本周産期・新生児医学会

資格：日本小児科学会専門医、新生児蘇生法インストラクター

**大学院生 朝比奈美輝**

所属学会：日本小児科学会、日本小児神経学会、日本人類遺伝学会、日本小児心身医学会

資格：日本小児科学会専門医、日本小児神経専門医

**大学院生 大高幸之助**

所属学会：日本小児科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会

資格：日本小児科学会専門医、PALS プロバイダー

**研究員 永田絵子**

所属学会：日本小児科学会、日本内分泌学会、日本小児内分泌学会、日本小児遺伝学会、  
日本人類遺伝学会

資格：日本小児科学会専門医、臨床遺伝認定医

**非常勤 松下理恵**

所属学会：日本小児科学会、日本内分泌学会、小児内分泌学会、糖尿病学会、肥満学会、  
日本人類遺伝学会

資格：日本小児科学会専門医、内分泌専門医

**(2) 浜松医科大学周産母子センター（2013年1月現在）**

**講師 岩島 覚**

所属学会：日本小児科学会、小児循環器学会、日本循環器学会、  
日本周産期・新生児医学会

資格：日本小児科学会専門医、小児循環器学会指導医

**助教 石川貴充**

所属学会：日本小児科学会、日本小児循環器学会、日本循環器学会

資格：日本小児科学会専門医、日本小児循環器学会専門医、  
臨床研修指導医、PALSプロバイダー

**診療助教（周産母子） 上野 大蔵**

所属学会：日本小児科学会、日本周産期・新生児医学会、日本未熟児新生児学会

資格：日本小児科学会専門医、新生児蘇生法インストラクター

**医員（周産母子） 関井克行**

所属学会：日本小児科学会、日本小児神経学会、日本周産期・新生児医学会

資格：日本小児科学会専門医

**(3) 浜松医科大学地域周産期医療学講座（寄附講座）（2013年1月現在）**

**特任准教授 飯嶋重雄**

所属学会：日本小児科学会、日本周産期・新生児医学会（評議員）、

日本未熟児新生児学会（評議員）、日本環境感染学会、日本診療情報管理学会

資格：日本小児科学会専門医、周産期（新生児）専門医、新生児蘇生法インストラクター、  
インфекション・コントロール・ドクター、診療情報管理士

## 特任助教 大石 彰

所属学会：日本小児科学会、日本周産期・新生児医学会、日本未熟児新生児学会、  
日本人類遺伝学会

資 格：日本小児科学会専門医、周産期（新生児）専門医、新生児蘇生法インストラクター

浜松医科大学小児科では内分泌・代謝、血液・腫瘍、循環器、神経、腎臓などのすでに多くの実績のある分野のみならず、新生児・周産期、臨床遺伝などの分野の充実を図っています。これからの小児科においては、従来の小児疾患(Pediatrics)だけではなく、アレルギー、精神保健、男子外性器低形成など、環境変化に伴う小児保健(Child Health)が重要となってきます。当科ではこのような時代のニーズに対応できる多様な人材の育成を目指しております。小児科専門医を目指す皆様にとっては、common disease の経験はもちろん、大学病院以外では経験が難しい専門疾患・専門医療を十分に研修することが可能です。

### 【浜松医大小児科で経験できる専門疾患(年間)】

小児がん	50 例	てんかん	100 例
血液疾患(入院)	5 例	発達障害	80 例
低身長	300 例	川崎病	10 例
甲状腺疾患	75 例	先天性心疾患	150 例
糖尿病	30 例	アトピー性皮膚炎	70 例
肥満	60 例	ネフローゼ症候群	5 例
性発達異常	60 例	腎炎	5 例
副腎疾患	20 例	NICU 入院	200 例
先天奇形症候群	40 例		

### 【浜松医大小児科で経験できる専門医療(年間)】

同種造血幹細胞移植	1 例
自家造血幹細胞移植	1 例
心臓カテーテル検査	45 例
腎生検	1 例
食物負荷試験	120 例
新生児人工呼吸管理	50 例
NO 吸入療法	10 例
新生児低体温療法	2 例
遺伝子診断・遺伝子解析	100 例
心臓超音波	1652 例
胎児エコー検査	23 例
脳低温療法	

研究業績（詳細はホームページ参照：<http://www2.hama-med.ac.jp/wlb/pediatr/index.html>）

英文論文

2012年 52編

2013年 28編

2014年 37編

和文論文

略

海外招待講演

2012年 3回

2013年 2回

2014年 2回

国内招待講演

2012年 16回

2013年 12回

2013年 12回

#### 【合同カンファレンス】

関連病院群を中心に内分泌カンファレンス、循環器カンファレンス、小児科カンファレンスなどを定期的で開催しております。小児循環器領域では静岡県立こども病院とのネット回線を使用した双方向性の症例検討、小児循環器領域のレクチャーを毎月1回および年に2～3回の小児循環器関連の研究会を行っています。

#### (4) 磐田市立総合病院小児科

指導医 小児科部長 遠藤 彰

資格：日本小児科学会小児科専門医、日本内分泌学会専門医、

日本内分泌学会指導医



中東遠地域における中核病院として、一般小児科とともに救急医療、周産期医療の充実に力を入れている。新生児、感染症、救急疾患が当院での3大研修疾患である。新生児：当院では年間1200例の分娩があり、新生児入院も年間150名ほどいる。新生児担当の指導医とともに正常分娩や帝王切開に立ち会うことで新生児の生理や誕生時の全身管理を習得する。また新生児救急蘇生法も獲得でき、新生児疾患である新生児一過性多呼吸や呼吸急迫症候群などの治療を経験できる。救急小児疾患も本院で集中的に学べる領域である。小児救急疾患は年間4600例あり、重症救急疾患も多い。腸重積や異物誤嚥、痙攣処置、脱水症などは指導医の基で、平均週1回の休日当直・宿直時に研修する。一般的な小児感染症も多く、入院の多くは感染症である。例えばRSウイルスによる細気管支炎、肺炎、ロタウイルス性胃腸炎、HHV-6による熱性痙攣、インフルエンザ、化膿性髄膜炎などの受け持ち医として診療に当たりながら研修する。研修開始1年間は主に入院患者の受け持ち医となる。平日は朝8:15からのカンファレンス、午後1時10分からの看護師、薬剤師を交えた症例カンファレンスでプレゼンテーションを行いながら指導を受ける。当院では年間1200例の入院患者があるので十分な研修が可能である。現在小児科専門医5名をふくむスタッフ10名が当院のスタッフで、新規研修医をやさしく指導している。



## (5) 浜松医療センター小児科

参与・小児科科長 西田光宏

日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医  
日本アレルギー学会代議員、日本小児アレルギー学会評議員  
アレルギー専門医教育研修施設



浜松医療センターは実質的に浜松市民病院としての期待と役割を担った急性期病院です。小児科専門医 5 名を含む 7 名のスタッフで地域の子どもたちの健康を守るために頑張っています。

研修の前半は、先輩小児科医とともに「common disease」をできるだけ多く経験し、小児科医に必須の臨床経験と実技と診療マナーを習得します。また、地方会レベルの学会で症例報告を複数回行うことをめざします

研修の後半は、それまでの経験を生かして、「自分で考え、自分で判断して、自分で解決できる小児科専門医」をめざします。全国レベルの学会発表に加えて、論文作成に挑戦します。

教育研修プログラムとして、上級医によるアレルギー疾患、血液疾患、神経疾患などの講義、近隣の開業医の先生方を含めた症例検討会、そして、若手医師を中心とした抄読会などを開催しています。また、月曜から金曜日の夕方に、入院患者さん全員のカンファを行っています。自分の担当患者さんのプレゼンを行い、診断や治療などの診療方針についてスタッフ全員で議論しています。

医療センターには、地域周産期母子医療センターが併設されています。NICU で未熟児や新生児の医療を研修することもできます。

平成 25 年度業績 論文 5 編 全国レベルの学会発表 8 編

平成 25 年度 浜松市医療奨励賞受賞

## (6) J A 静岡厚生連 遠州病院

指導医 小児科診療部長 三枝 弘和 平成 2 年卒 医学博士

所属学会：日本小児科学会、日本小児内分泌学会、日本内分泌学会

資格：日本小児科学会専門医



当院小児科は平成 23 年 10 月より常勤医が 1 名増えて 4 名体制となりました。

平成 19 年 4 月に新病院に移転して以降、外来・入院患者数とも順調に増加しています。分娩数が約 4 倍の 1000 件越えとなったこともあり、小児科入院患者数も 700 台となり、症例は新生児から小児科の各種疾患まで豊富です。

私自身の専門は小児内分泌で低身長や糖尿病などを中心に診ておりますが、浜松医大小児科元教授の五十嵐先生、現教授の緒方先生も月 1 回内分泌外来を行っております。

また平成 18 年 4 月より勤務しております坂倉医師は、それまで浜松医大の大学院で免疫系の研究をしていた関係もありアレルギーの分野を専門としています。

それ以外の専門外来としては、神経発達外来、腎臓外来、心臓外来をそれぞれ月に 1~3 回、浜松医科大学の専門医が診療しています。

他に当院小児科の特徴としては臨床心理外来の充実があげられます。計 5 名の臨床心理士が毎

日カウンセリングを行っており、不登校や自閉症児などの継続的治療を行っています。これは市内総合病院では随一の規模と思われます。

以上のような環境で研修をしていただき、採血・予防接種や乳児健診なども実際にやってもらっています。

平成 15 年に私が当院に赴任して以来、当院で研修されて小児科医になった医師が 8 名（うち 3 名はもともと小児科志望ではありませんでした）いますので、研修内容は充実したものであると思っています。

## (7) 聖隷浜松病院

指導医： 小児科部長 松林正

資格： 小児科専門医、日本血液学血液専門医・指導医、日本小児血液・がん学会暫定指導医、インфекションコントロールドクター

研修体制： 入院患者は上級医と共に担当し診療を行います。専門的疾患に関しては各分野の専門医から指導を受けることができます。外来診療、当直等は上級医と同様に担当します。

特徴： Common disease から専門的疾患(循環器、神経、腎、内分泌、アレルギー、血液・腫瘍、消化器、呼吸器、リウマチ性疾患など)まで幅広く診療しています。

症例実績： 入院総数(小児循環器、小児神経科を含む) 993 名、(2013 年度) 腎生検 24 件、急性血液浄化療法 9 件、腹膜透析 3 件、自家末梢血幹細胞移植 1 件、リウマチ性疾患に対する生物学的製剤 7 名、負荷試験による内分泌機能評価 51 件

発表実績： 論文 19 編、学会・研究会発表 63 件 (2013 年度)



## (8) 浜松赤十字病院小児科

指導医 小児科部長 柴田 幸信

資格：日本小児科学会専門医、臨床研修指導医、  
インフェクション・コントロール・ドクター

浜松赤十字病院は、旧浜北市の招致を受けて、平成 19 年 11 月に浜北区に移転しました。それ以降、地域に密着した急性期医療と病診連携、救急医療を基本方針とし、浜北市民病院的な地域中核病院を目指して医療に取り組んでいます。また平成 24 年度から静岡県指定の災害拠点病院となり、日本赤十字社の基本理念である災害医療により積極的に関与して行くことになりました。

当院小児科は、上記の基本方針を受けて、小児の急性期医療と救急医療を主な対象としています。また浜松医大小児科医師を主とする非常勤専門医師 5 名（アレルギー、神経、内分泌代謝、循環器）による専門外来にて、専門性を確保しています。なお産婦人科の事情（常勤医 1 名）で分娩を取り扱っておらず、新生児医療はありません。

浜北区への移転以降、当科における入院患者数、外来患者数、紹介患者数は順調に増加し、平成 24 年度は入院患者数 586 名、紹介患者数 880 名となりましたが、平成 25 年度以降は 400 名程度の年間入院患者数で推移しています。入院患者は感染症が主で、小児の一般的な急性疾患はほぼ含まれているものと思われます。また、検査入院（主として内分泌負荷試験と食物負荷試験）も行っています。災害医療に関しては、平成 23 年の東日本大震災の際に、当科からも医師を派遣しました。

当科は常勤医師2名であり、浜松市内の病院における最小の小児科です。当科においては、この特色を逆に生かして、常勤医師の指導の下に研修医に対して密着した研修指導（常勤医師と共同担当の外来と病棟の診療、救急当直業務、常勤医師指導下での処置など）を行っており、自立した小児科一般診療が可能になることを目指しています。

#### (9) 中東遠総合医療センター

(正式名称 掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター)

指導医 小児科診療部長 久保田晃

資格: 日本小児科学会専門医、臨床研修指導医

**特徴:** 袋井市民病院と掛川市立総合病院の2つの自治体病院が、平成25年5月に合併・統合して誕生した病院です。500床の病床数で、そのうち小児科は13床ですが、新生児を含め年間1000人以上の入院患者があります。外来部門は午前中一般小児科診療で、開業医からの紹介患児と旧病院から引き続き診療を続けている慢性疾患患児の外来診療が主となります。日常よく遭遇する感染症から、専門的疾患(神経、腎、内分泌、アレルギー、消化器、呼吸器、膠原病リウマチ性疾患、心身症など)まで幅広い疾患が対象となります。午後は、月曜日と木曜日に予防接種外来、火曜日と水曜日と金曜日に乳児健診を行っています。浜松医科大学小児科から専門医を招聘して、小児循環器・アレルギー・内分泌の外来も開設しています。入院部門としては、2次医療レベルまでの入院診療を行っています。新生児部門は、異常分娩・緊急帝王切開の分娩立会いから、病的新生児の入院診療を行っています。

**研修体制:** 外来部門では、外来担当医として1人で外来診察を担当します。入院診療については、主治医として入院患児を担当することになります。外来診療は3診から5診で診療していますので、その場で上級医に診療の相談をすることが可能です。入院患児については、平日は毎日、朝と夕に、各症例についてのカンファレンスを行っていますので、研修医の診療についても、その場できめ細かなアドバイスをしています。

小児科医として身につけておきたい知識と経験は、当科での研修で習得できます。一般診療だけでなく、乳児健診・予防接種外来でも、たくさんのお子どもたちと出会っていただきます。医療は基本的に経験学です。経験を積めば積むほど、実力は向上していきます。新生児から、思春期の子どもたちに至るまで、様々な症例をいっしょに経験することによって、一人前の小児科医として成長する道程を、ともに歩んでいきたいと考えています。

#### (10) 藤枝市立総合病院小児科

指導医 小児科部長 伊東充宏

資格: 日本小児科学会小児科専門医、日本小児外科学会専門医

地域に密着した二次病院として日々の診療を行っている。

新生児: 在胎30週以上、1000g以上の新生児を対象として、NICU管理を行っている。2013年度は184例のNICU入院があった。院内出生は勿論のこと、院外における緊急帝王切開などにも積極的に分娩立ち合いを行っており、地域の周産期医療を支えている。さらに静岡県立こども病院NICU等からのバックトランスファーも積極的



に受け入れ、地域の赤ちゃん全員を支えるべく診療を行っている。

一般病床：感染症を中心に年間約 1000 例の入院患者に対応している。けいれん性疾患や腸重積など救急疾患に対する処置や、インフルエンザ、ウイルス性腸炎、川崎病など、一般小児疾患を十分に経験できる環境である。病棟は小児専門病床であり、疾患のみでなく児の家族や社会的背景を十分に考慮した観察や対応を実感することができる。

外来：入院患者として担当した児の退院後も自ら責任をもって Follow する。新生児の発達の過程や気管支喘息の Control 等を経験することができる。虐待や育児不安など、地域の病院として疾患のみでなく社会的背景を考慮した対応を行っている。

#### (11) 静岡済生会総合病院

指導医 小児科部長兼周産期センター長 福岡哲哉

所属学会：日本小児科学会、日本小児循環器学会、日本循環器学会、  
日本小児心電図学会、日本川崎病学会

資格：日本小児科学会専門医 臨床研修指導医



当院小児科は一般小児病床 16 床、NICU 6 床、GCU 11 床、計 33 床の病床数を持ち常時 25 名から 30 名の入院数があります。周産期医療に関しては地域周産期支援病院に指定されており、県立こども病院新生児・未熟児科と協力し、役割分担して主として静岡市内の周産期医療の一部を担う立場にあります。産科はハイリスク妊婦の受け入れを積極的に行い、その分娩立会い等に積極的に協力しています。

また、静岡市内の 2 次救急医療体制にも協力し、現在月 5-6 回の夜間 2 次救急当番を担当しております。

また、当院は別に病院として救急センターを 24 時間体制で行っているため、そちらからの依頼で小児の救急患者の受け入れをすることもあります。

一般小児の入院は感染症が主ですが、アレルギー性疾患や川崎病、てんかんなどの神経疾患なども多く、新生児医療をしている関係で急性期の先天性心疾患や先天異常なども診る機会も多く、小児科の疾患を一通り診療する機会に恵まれていると思います。

また、併設されている静岡医療福祉センターと診療面で協力しあい、発達障害などの医療・重症身体障害児のケアなどの医療などにも関わる機会があります。

現在常勤医は 8 名（うち小児科専門医 4 名、後期研修医 2 名、1 名静岡県立こども病院研修中）非常勤 5 名の体制で診療しており、各分野のスペシャリスト（大学からは教授および准教授に来ていただいています）に専門外来をしていただいているのも魅力のひとつです。

## (12) 聖隷沼津病院

指導医 副院長兼小児科部長

鶴井 聡

資格：日本小児科学会専門医

日本小児神経学会専門医



当科は沼津市を拠点とした地域総合病院として小児医療全般を担っています。一般小児では駿東地区全域の医療機関から紹介患者さんを受けておりますが完全紹介制をとっていないため直接来院される患者さんも多くプライマリ・ケアにも力を注いでいます。救急は輪番制による駿東地区全域の二次救急を月に1/3強程度受け持っています。救急体制が完備されていることもあり1次救急に関わることは少ないのですが地域柄、時には3次救急に相応するケースにも対処しなければならないこともあります。

新生児に関しては院内及び院外出生（順天大学附属静岡病院からの三角搬送）児をNICUで受け入れております。常勤医の専門により神経疾患と新生児医療に関してはより専門的に指導が可能となっております。さらに浜松医科大学の協力のもと循環器外来、内分泌外来があり、稀な疾患も含め様々な疾患を経験できます。入院数は年間600～700人前後とそれ程多くはありませんが経験できる疾患の多様性により専門医制度変更後平成25年12月現在、当院に在任中7名が日本小児科学会専門医を取得しました。

朝は8時より小児科医師全員による回診に始まり毎週1回は他の医療スタッフと共にカンファレンスを行い勉強会も随時開いています。学会参加に対しても積極的に促し小児科学会静岡地方会にはほぼ毎回、日本小児科学会、小児神経学会、思春期学会等の学会などで発表しております。後期研修医は病棟業務が主となりますが専門医と共に週3回は一般外来も担当します。

現在小児科医師は小児科専門医4名（内、1名育休中）、後期研修医2名の体制となっております。コミュニケーションをとりやすくし、より細やかな指導を心掛けています。小児医療全般の研修が可能で小児科専門医を取得するには相応しい施設と自負しております。

## 8 病院群の症例実績

※ 「7. 研修病院群（症例実績を含む）」を参照して下さい。

## 9 研修期間

3～5年間（日本小児科学会入会年月日により個別に対応）

なお、本研修期間終了後の進路としては、項目12の通りです。

## 10 プログラム参加の要件

- 1) 初期臨床研修を終えていること
- 2) 小児科学会に入会すること
- 3) 小児科専門医取得の意志があること

## 11 処遇

給与等の処遇についてはそれぞれの勤務先の規定に準じます。大学の場合は大学からの給与の他、大学の規定内にて兼業先を紹介するため生活面での心配はありません。

## 12 プログラム終了後の進路

以下が挙げられます。この進路についても、浜松医大を中心として最大限の支援を行います。

- 1) 小児科専門分野 (subspecialty) の研修:小児科専門医取得と並行して、あるいはその後に、小児科専門分野 (循環器、神経、血液腫瘍、内分泌など) の研修を、浜松医大あるいは各分野の相応しい施設で行います。そして、小児科専門分野 (subspecialty)における専門医取得を目指します。
- 2) 学位の取得:浜松医大において大学院進学による学位取得あるいは論文提出による学位取得の道が開かれています。通常、上記の小児科専門分野の臨床研修と並行して、研究を行うこととなります。国内外の留学についても積極的に支援します。
- 3) 一般病院勤務(このプログラムに参加する病院群を含む):これについても積極的に支援し、斡旋します。
- 4) その他:開業や発展途上国における医療支援活動など、個人のライフプランに応じて選択可能です。

## 13 プログラム運営委員会

### ◎プログラムリーダー

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学小児科 教授 緒方勤  
電話・FAX: 053-435-2312 E-mail: tomogata@hama-med.ac.jp

### ○プログラムの管理

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学小児科 助教 石川貴充  
電話・FAX: 053-435-2312 E-mail: takamichinet@aol.com